



8月の学級づくり【中学校版】

8月は、夏休みに入ってほっと一息できるときです。部活動もありますが、教材研究や様々な研修に参加して、自分の学級づくりや教科指導、あるいは生徒理解について、見識を広げられるときです。2学期、よいスタートができるよう、リフレッシュするとともに、学級づくりの種まきの準備を考えておきましょう。

「夏休み中の生徒の内面を 活性化する教師の心がけ」

(担任)「今日の部活、B君の声、響いていたぞ」

(B生) 照れくさそうに笑っている。

(担任)「B君の声って、チームの要だな」

(B生) 主体的にコートにコート片付けを始める。

これは、夏休み中のB生の様子を気にかけていた担任が、部活動に顔を出して、さり気なく声をかけ、B生の内面を活性化している場面です。

夏休みは、生徒の生活習慣や生活態度が乱れがちです。生徒の心の揺れが問題行動へと発展することもあります。

日頃から気にかけている生徒(その子)に直接働きかけること、タイムリーに声をかけること、そして、話題を共有することは、生徒の自尊感情を高め、生徒自身に活力を与えることにつながります。

担任は、生徒が参加する部活動や行事等の日程を把握しておき、機を捉えて、夏休み中の生徒に働きかけてみることも必要です。

2 学期 の 勘 所

後輩に残したい姿を：3学年

生徒会最大行事、文化祭。その中核には3年生がきちんと位置し、1, 2年生に鮮烈な印象、できれば憧憬を残したいですね。

生徒会役員だけではなく、学年全体を巻き込んで進めるための策を練りたいところ。ステージ上で「これが最高学年だ!」という姿を、1, 2年生にしっかり見せてあげましょう。

飛躍の学期：2学年

生徒会の引継がやってきます。最高学年への助走であり、生徒個人も集団も大きく成長するチャンスです。今までの学級、学年経営の成果が見えてくる時でもあります。係の先生を中心に、学年会全体で共通の指針をもって推進しましょう。

長期的展望をもって：1学年

1学期末の行事は、振り返りをしっかりとまとめられましたか。来年の行事ではどんな姿を願いますか。つながりを意識した計画と指導が、2年後の修学旅行をより感慨深いものにします。

生徒の心に伝わるほめ方・叱り方

「教師自身の素直な気持ちを、自分の言葉で、心を込めて伝えていくこと」が大切です。

ほめ方のポイント

- ・「先生はいつも見ているよ。」が伝わる具体的な事実を伝えましょう。
- ・「あなたのがんばりや成長が先生もすごく嬉しいよ。」という気持ちを率直に伝えましょう。
- ・「先生がこう言ってたよ。」「さんの生活ノートにこう書いてあったよ。」など、他の人からのほめ言葉をさりげなく伝えましょう。

叱り方のポイント

- ・「いけないことはいけない。」そしてなぜその行為がいけないのかはっきり伝えましょう。
- ・なぜそうしてしまったのかを本人に語らせ、気持ちをしっかり受け止めてあげましょう。
- ・「話してくれてありがとう。これからが大事なんだよ。」と伝え、温かく見守りましょう。

支援が必要な子どもの「つまずき」を支援するポイント

「作文に対する抵抗感が強い生徒」

イメージをふくらませることが苦手ですか？

取材学習では、デジタルカメラやボイスレコーダー等に大切だと思えたことを自分で記録する、見学先のパンフレットを集めてくる等、構成段階でイメージがわきやすくしては。

文字を書くことへの苦手意識がありますか？

何についての作文を書くか事前に予告し、PC等を活用しての下書きを行い、その下書きに沿って清書を行っては。

ものごとを順序立てて考えることが苦手ですか？

「いつ」「どこで」「誰が」「何をして」「どう思ったのか」など、質問形式のワークシートに自分で記入し、そのアウトラインメモをもとに文章を構成しては。